

重点プロジェクト計画概要一覧表（北陸ブロック）（平成２９年度）

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 （複数可）	活動計画の要約	連携機関 （役割分担）	活用事業
新潟県	1	大豆の高品質・安定多収生産に向けた優良品種「里のほほえみ」の早期導入	H27 ～ 30	土地利用型作物 （普通畑作物）	○地域の現状と課題 ・本県の大豆作付品種は「エンレイ」が9割以上を占め、しわ粒により品質は低迷し、収量や作付面積も近年減少傾向である。 ○目標を達成するための活動方法 ・近隣県では対策として、しわ粒が少なく難裂莢性で収穫ロスの少ない「里のほほえみ」の導入が進展しており、新潟県でも生育や加工特性、現地適応性を早期に把握し、新品種「里のほほえみ」の迅速な普及拡大を目指す。 ・県内9か所の実証ほ設置し（普及センター、JA、生産者）、生育特性の把握や研修会を通じた生産者や関係機関への理解促進を図る。さらに加工適性の評価と実需者への情報提供など、生産者と実需者とのマッチング活動を実施して、関係機関の連携強化に取り組む。	○関係機関との役割分担 ・県内の豆腐・油揚げ加工業者等と連携し、新品種を活かした加工技術を検討し、意見・情報交換会を通して加工業者への利用推進を図る。 ・試験研究機関（作物研究センター・食品研究センター）による調査・分析と栽培および加工マニュアルの作成。	○新品種・新技術活用型産地育成支援事業（H27～28）
新潟県	2	新たな担い手と地域農業のマッチングによる新規就農者の確保	H29 ～ 31	就農	○地域の現状と課題 ・産地等ではリタイアする農家の経営資産が消失している。 ・一方、新規参入者は農地や農業機械等の確保が課題となっている。 ○活動方法 ・就農希望者を産地等に受け入れる体制を整備する。 ・リタイアする農家の経営資産と就農希望者をマッチングする仕組みを構築する。	青年農業者等育成センター（就農相談、研修先の紹介等）	（県）産地の経営資産継承支援事業
富山県	1	売れる米・大豆・大麦等の生産の推進	H27 ～ 29	土地利用型作物 （米、普通畑作物）	○地域の現状と課題 ・米では、近年の温暖化により主力品種である「コシヒカリ」の品質低下が顕著となっており、土づくりや適正な生育量への誘導などの技術対策の一層の推進が必要。また、米価低迷や新たな米政策が進められる中、直播栽培などの低コスト生産技術の普及拡大、多様なニーズに対応した新規需要米の低コスト安定生産など経営発展に不可欠な技術の定着・普及が必要。 ・麦・大豆では、気象変動や病害虫および難防除雑草の発生等により、収量・品質が不安定であり、生育・気象に応じた技術対策の徹底が必要。 ○目標を達成するための活動方法 ・売れる米・麦・大豆の生産を推進するため、生育・気象に応じた技術対策の策定と情報発信により、収量・品質の高位安定化技術の徹底を図る。また、新品種（シュウレイ等）や低コスト生産の栽培実証等による普及拡大と定着を図る。	ＪＡ、先進農業者、試験研究機関等と連携し、収量・品質の高位安定化技術や低コスト技術等の普及・定着を図る。また、実需者等との意見交換や情報収集により、実需ニーズに基づいた新規需要米、新品種や高品質麦・大豆生産を推進。	大豆・麦・飼料用米生産拡大支援事業
富山県	2	競争力のある県産野菜の生産拡大	H27 ～ 29	園芸（野菜）	○地域の現状と課題 ・本県の野菜生産は、ＪＡが主体となった１億円産地づくりや冬季野菜のブランド化などの取組みにより、着実に広がりを見せているが、生産者間・産地間の単収格差や冬季野菜・加工用の需要に対する供給不足等の課題がある。 ○目標を達成するための活動方法 ・１億円産地を核とした野菜産地の育成 広域産地形成品目をについて、プロジェクトチームによる技術体系の確立を図り、目標単収の早期実現を図る。 ・実需者ニーズに対応した強みのある商品づくり 冬季出荷野菜では、新規生産者の確保・育成を図りつつ、技術の徹底により生産拡大を図る。 「ねぎたん」については、調整業の省力化や単収向上技術の指導とともに、東京圏等の販路・需要拡大を図る。 また、加工業務用として、キャベツ等の生産拡大やリーキ等の新規品目の作付推進と実需とのマッチングを支援する。	ＪＡ、先進農業者、試験研究機関等とのプロジェクトチームにより、重点品目の収量・品質の高位安定化技術や新規品目の生産技術の確立等を図る。また、県内外の市場・流通販売業者・実需者等と連携して品目・品種の選定、販路拡大、出荷形態等を検討し、意見交換やマッチング支援により、市場出荷や加工業者・外食産業等の利用拡大を図る。	
富山県	3	多様な販路開拓による複合経営の拡大と県産果実の生産・販売力強化	H27 ～ 29	園芸（果樹）	○地域の現状と課題 ・果樹は、複合化品目として一定の導入が図られているが、近年はやや停滞傾向にあり、面的な広がりに繋がっていない。 ・ももでは、これまでの重点的な取組みにより栽培時術の習得等は見られるものの、経営成果につながる単収向上や販売環境の変化に対応した多様な販路開拓が必要である。 ・りんごでは、「ふじ」に偏重した品種構成であり、庭先直売だけでは販路確保が厳しい状況にある。 ・外食産業を中心にベリー類や小粒イチジク等の需要が高まっており、県内産の生産量の確保と用途に応じた品種の生産が求められている。 ○目標を達成するための活動方法 ・市町村、ＪＡ、生産団体等が一体となり、地域の重点品目を設定するとともに、重点的な啓発活動、モデル経営体の育成に取り組み、生産者、栽培面積の増加を図る。 ・ももでは、重点経営体を設定し、単収向上栽培技術の指導や販路開拓支援により、高い経営成果をあげるモデル経営体を育成する。 ・りんごは、量販店販売指向産地を対象に、品種構成の是正、わい化栽培の導入、量販店等の販路確保を支援する。 ・ベリー類、小粒イチジクについては、栽培技術の確立を図るとともに、優良品種の導入、販路の拡大を図る。	ＪＡ、先進農業者、試験研究機関等とのプロジェクトチームにより、重点品目の収量・品質の高位安定化技術の確立等を図る。また、県内外の市場・流通販売業者・実需者等と連携して品種の選定、販路拡大等を検討し、意見交換やマッチング支援により、市場出荷や加工業者・外食産業等の利用拡大を図る。	

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関 (役割分担)	活用事業
富山県	4	県産花きの生産力向上とブランド化	H27 ～ 29	園芸（花き）	○地域の現状と課題 ・チューリップ球根は、安価なオランダ産球根の輸入に加え、高齢化や土壌伝染性病害により栽培面積が減少している。また、球根生産は、作業時間が多いため、省力化を図るためネット栽培機械の開発・導入を進めている。 ・切花生産では、市場価格の低迷や高齢化等により栽培面積が伸び悩んでいる。特に小ギクでは、旧盆を中心に需要はあるものの供給不足となっており、安定供給を図る契約的取引に取り組んでいるものの、開花調整や品質等に課題が残っている。また、小ギク以外の切花については、市場が主体となり県外出荷を行うなど価格の安定化に取り組んでいるものの、長期間の安定出荷という実需ニーズに応えられていない。 ○目標を達成するための活動方法 ・チューリップ球根では、重点技術対策による安定生産を図るとともに、省力化、機械化に向け、ネット栽培機械の開発・導入支援を行うとともに、ネット栽培機械化技術体系の確立を図る。 ・切花生産については、市場、農協等との連携強化により契約的取引の拡大を図るとともに、実需ニーズに応じた安定出荷を図るため、品種の選定、開花調整技術の確立、品質保持・向上対策の推進により、生産拡大とブランド化を推進する。	球根農協、先進農業者、試験研究機関、機械メーカー等と連携し、チューリップ球根のネット栽培機会の開発および栽培技術の確立等を図る。 切花については、県内外の市場・流通販売業者・実需者等と連携して品目・品種の選定、販路拡大等を検討し、情報交換等により、需要に応じた安定生産・出荷体制の確立を図る。	
富山県	5	生乳生産性や乳質向上等による酪農経営の安定	H27 ～ 29	畜産	○地域の現状と課題 ・本県の酪農家戸数は減少傾向にあり、経産牛１頭当たり乳量も増減している。 - 飼料価格の高騰等、厳しい情勢の中で酪農家の経営安定を図るには、経産牛１頭当たりの生産乳量を安定的に増加させ、生産効率を向上させることが不可欠である。 ・消費者が求める良質で安全な生乳の安定供給を図るため、乳質改善意欲の高い酪農家に対し、その改善方法を検討するとともに、改善のために必要な機器整備への支援を行う必要がある。 ○目標を達成するための活動方法 ・牛群検定成績を活用した改善指導を行い、検定牛における搾乳牛１頭当たり乳量の向上を図る。 ・受精卵移植や性別別精液等を利用した後継牛の確保と、哺育・育成技術の向上を図る。 ・生乳検査項目において格差金の対象となりやすい体細胞数の低減を図る。 ・飼養管理や飼養環境の改善を指導し、生乳生産量の向上を図る。	ＪＡ、先進農業者、試験研究機関、家畜保健衛生所や公共育成牧場等と連携し、牛群検定、飼養技術の改善、飼養環境整備等を指導・支援し乳量・乳質の向上を図る。	
富山県	6	飼養管理技術の向上及び低コスト生産による肉用牛農家の経営安定	H27 ～ 29	畜産	○地域の現状と課題 ・飼料価格や素牛価格の高騰、畜産物価格の下落などにより肉用牛経営は厳しさを増しており、さらなる技術改善による生産性向上と低コスト生産による収益性の向上が課題となっている。 ・繁殖経営の低コスト化においては、耕作放棄地等への放牧を拡大する動きがあり、この支援を強化していくとともに、繁殖牛の増頭により素牛生産頭数の拡大を図る必要がある。 ○目標を達成するための活動方法 ・肉用牛技術改善総合システム「ＢＴＴＳ」を有効活用し、種雄牛データ等の活用による優秀な和子牛の生産、チェックリストを活用した肥育技術の向上、出荷枝肉成績等の分析・フィードバックによる飼養管理の改善など、技術の向上と経営改善を図る。 ・受精卵移植（ＥＴ）の活用により能力の高い素牛生産と、その産子の育成技術指導により、優良肥育素牛や繁殖後継牛の育成を図る。 ・放牧の推進により、飼料自給率を高めるとともに、素牛生産頭数の増頭を図る。	ＪＡ、先進農業者、試験研究機関、家畜保健衛生所等と連携し、データの活用等による最適な交配指、飼養管理や飼養環境改善指導により、肥育成績や品質の向上を図る。 放牧については、市町村、農協、家畜保健衛生初頭と連携し、新規参入支援と放牧管理指導により、放牧の取組みの拡大を図る。	
富山県	7	経営管理と飼養管理技術の向上による中小家畜経営の安定	H27 ～ 29	畜産	○地域の現状と課題 ・近年の飼料価格の高止まり、豚肉や鶏卵価格の低迷等、中小家畜経営をとりまく環境は厳しい状況にある。このような状況に対応するためには、飼料用米やエコフィードの活用等によるコスト低減、飼養管理技術の改善等による生産性の向上を推進していく必要がある。 ・混住化等から畜舎が住宅地に隣接することとなり、臭気やハエ等の発生が地域住民からの苦情の原因となっている。今後、共存を図る上で、苦情の原因を排除することが喫緊の課題となっている。 ○目標を達成するための活動方法 ・エコフィードについては、適正な飼料設計支援、給与指導、給与効果の把握等により利活用の推進を図る。 ・養豚において、飼養管理技術の向上により、上物率や繁殖成績の向上を図る。 ・畜舎等の環境改善については、適切な改善策の提案・実践の支援を行うことで、悪臭・害虫の発生の予防を図る。	ＪＡ、先進農業者、試験研究機関、家畜保健衛生所、飼料メーカー等と連携し、飼料分析評価や給与指導等により、中小家畜の生産安定を図る。	

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関 (役割分担)	活用事業
富山県	8	耕畜連携による飼料用 稲・米生産利用拡大	H27 ～ 29	畜産	○地域の現状と課題 ・穀物飼料価格の高止まりによる生産費の増大は、畜産経営を圧迫しており、安定した飼料生産基盤の確保が課題である。一方、飼料稲、飼料用米の取組を希望する耕種農家が増加しており、市町村・ＪＡを含めた関係機関の支援体制の強化が進められている。 ・こうした中、豚、鶏だけでなく乳牛や肉牛においても給与方法の確立に向けた検討が行なわれている。 ○目標を達成するための活動方法 ・耕種サイドとの連携強化による飼料用稲・飼料用米の作付を推進するとともに、飼料生産組織の育成強化を行なう。 ・給与マニュアル等に基づいた適正な給与体系の指導による、飼料用稲・米の利用拡大を図る。	市町村、ＪＡ、畜産・耕種農家等と連携し、生産組織の育成やマッチング支援等により、飼料用稲・米の生産・利用体制の確立を図る。 ＪＡ、先進農業者、試験研究機関、家畜保健衛生所等と連携し、飼料用稲・米の品質分析や給与指導により、効果的な給与による生産性の向上を図る。	大豆・麦・飼料用米生産拡大支援事業
富山県	9	加工業務用野菜の安定生産（キャベツ、青ねぎ）	H28 ～ 29	園芸（野菜）	○地域の現状と課題 ・近年、生活スタイルの変化により食の外部化が進展し、野菜需要全体の約6割が加工業務用需要となっており、国産品に対する潜在的ニーズも高く、生産拡大と安定供給体制の整備が求められている。 ・このような状況に対応するため主穀作経営体を中心に、加工業務用野菜に取り組んでいるが、契約数量・品質確保に向けた安定生産技術の確立と低コスト・省力化による生産拡大が課題となっている。 ○目標を達成するための活動方法 〔キャベツ〕 ・7月中下旬及び10月上中旬等の出荷期間拡大のための有望品種の選定や3～4月出荷の品種選定、作型の選定を行う。 ・作業に応じた効率的な施肥技術の確立のため、緩効性肥料等の利用による作型に応じた効率的な施肥技術の実証を行う。 ・機械作業の効率化を図るため、低面給水育苗技術の実証を行うとともに、機械収穫に対応し、かつ水田転換畑でも利用可能な栽植方法の実証を行う。 〔青ねぎ〕 ・製品率の向上及び出荷期間の拡大を図るため、4月中旬からの定植や大麦跡での定植による実証と作型に応じた栽植方法について実証を行う。併せて、4月中旬の定植においてトンネル被覆による生育促進効果及び霜害防止効果について実証を行う。 ・省力栽培技術の確立を図るため、移植作業において移植機を利用し、省力栽培技術の実証を行う。	先進農業者、試験研究機関、種苗業者、機械メーカー等と連携し、有望品種の選定、機械化体系等を実証し、ニーズに応じた栽培技術の確立等を図る。 また、県内外の市場・流通業者・加工業者等と連携して、品種の選定、出荷計画等を検討し、情報交換等により、需要に応じた安定生産・供給体制の確立を図る。	産地ブランド発掘事業
富山県	10	新品種の導入による「りんご」の安定供給体制の確立（中生種の栽培体系の確立及び実需ニーズに応じた安定生産）	H28 ～ 29	園芸（果樹）	○地域の現状と課題 ・本県の「りんご」の主力品種は晩生種の「ふじ」であり、栽培面積の78%を占めるが、収穫作業や販売期間が短期間に集中し、労力確保のみならず販路拡大も難しくなっている。また秋季の台風等の落下被害のリスクも大きいことから、中生品種導入による品種構成の是正が課題となっている。 ・また、消費者や流通業者等の実需者からは中生品種のニーズは年々拡大しており、また加工業務用のニーズ増加傾向にある。 ・中生品種は導入されているものの、十分な栽培特性や品種特性は把握されていない。 ○目標を達成するための活動方法 ・各産地で栽培されている中生品種の果実品質等について調査するとともに、実需評価を踏まえた用途別の品種選定に取り組む。 ・中生品種について、実需に応じた果実品質を確保するため、着果及び選果基準確立実証を実施する。併せて加工業務用品種について、収量を確保するための多着果技術について実証する。	先進農業者、試験研究機関、実需者等と連携し、評価を踏まえたうえで有望品種の選定を実証し、ニーズに応じた栽培技術の確立等を図る。 また、県内外の市場・流通販売業者・加工業者等と連携して実需の評価、情報交換等により、需要に応じた安定生産・供給体制の確立を図る。	産地ブランド発掘事業
富山県	11	花束加工用向け切花の安定供給の確立（実需ニーズに応じた切花の安定生産）	H29 ～ 30	園芸（花き）	○地域の現状と課題 ・本県の切花の実需者は、需要が増大する旧盆や彼岸に安定した入荷を望んでいる。本県では小ギクの契約取引に取り組んできたところである。今後とも安定した供給を図るには、小ギク以外でも需要の高いシンテップユリやケイトウの取引拡大や定着化及び”とやま”ならではのチューリップ切花の需要拡大を図るため原種系切花について、安定生産や供給が可能となる取組みが必要である。 ○目標を達成するための活動方法 〔シンテップウユリ〕 ・旧盆向けに対応できる花束加工向けユリ切花生産技術の確立のため、2～3輪の安定的輪数確保技術及び減蕾による輪数調整技術確立のための実証を行なう。 ・生産販売連携による意見交換及び品目・品種選定のマッチング 〔ケイトウ〕 ・埋もれた品種を対象に生産拡大を図るため、花束向けの適したサイズの花径を安定生産するための技術確立のための実証を行なう。 ・生産販売連携による意見交換及び品目・品種選定のマッチング 〔チューリップ〕 ・花束加工に適した切花生産に必要な冷蔵温度、期間等の処理方法を検討し、安定生産技術に取り組む。 ・生産販売連携による意見交換及び品目・品種のマッチング	先進農業者、試験研究機関、実需者、種苗会社等と連携し、評価を踏まえたうえで有望品種の選定を実証し、ニーズに応じた栽培技術の確立等を図る。 また、市場・流通販売業者等と連携して実需の評価、情報交換等により、需要に応じた安定生産・供給体制の確立を図る。	産地ブランド発掘事業

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関 (役割分担)	活用事業
石川県	1	ルビーロマンの生産拡大とブランド化の推進	H28 ～ 31	園芸（果樹）	○平成18年の本格的な苗木供給以来、着果量は年々増加しているものの、裂果や着色不良の発生等により商品化率が約3割と低く、出荷量が伸び悩んでいる。特に、近年は着色期である夏期の高温や極端な大房化・大粒化のため着色不足が減収要因の約4割を占め、着色向上対策技術の確立と普及が求められている。 ○普及指導員と研究員で構成する指導チームを設置し、チームによる生育や気象に応じた現地集中指導の実施や環状はく皮処理等の新技術を現地実証し、商品化率の向上を図る。	ルビーロマン研究会（生産者による団体） ルビーロマン流通販売プロジェクト会議（ルビーロマン研究会代表、JA全農いしかわ、関係JA、丸果石川、県）	（県）ルビーロマンブランド化の推進
石川県	2	フリージア「エアリーフローラ」の生産拡大	H26 ～ 29	園芸（花き）	○県が開発したフリージア品種シリーズ「エアリーフローラ」の広域産地の育成を図るため、生産者の確保、生産から販売までの課題解決、販売プロモーションの企画などに取り組み、花き生産額が全国最下位である本県において、本県のシンボルフラワーにふさわしい花として育成し、花き生産額の増加を図る。 ○普及指導員と研究員、行政で構成するエアリーフローラ技術者会議を設置し、栽培マニュアルの作成や現地検討会などによる技術課題の早期解決を図る。 ○JA、全農と連携し、県域で組織する生産者組織の活動の支援を行う。 ○新規栽培者の育成確保のため、農業試験場で実施する実習を中心とするセミナーの講座の運営を行う。 ○生花店や卸売市場など実需者を交えた新たな花色、花形など育種の方向性検討や長期出荷技術、水稻生産者向けの大規模栽培法など研究機関へのフィードバックを行う。 ○異業種の女性経営者等で組織するPR研究会の設置により得られたとPRアイデアの販売企画化と実行を指揮する。	エアリーフローラ振興会（生産者による団体） JA全農いしかわ	（国）新品種・新技術活用型産地育成支援事業
福井県	1	水田農業担い手の経営改善支援	H26 ～ 30	稲作、普通畑作物、野菜	○地域の現状と課題 ・農地中間管理機構を活用し、メガファーム組織の育成が進んでいる。 ・集落営農組織の経営課題を明らかにし、経営指標を作成する必要がある。 ○目標を達成するための活動方法 ・各地域の状況を共有し、メガファーム育成マニュアル簡易版を作成、農地中間管理機構の活用を促進しながら育成を進める ・集落営農組織の経営改善手法として、複合化経営に向けた経営指標を作成し、経営指標に基づく最適経営計画を検証し活用を進める	農林総合事務所、嶺南振興局、農試（企画・指導部、作物部、ポストコシヒカリ開発部）、JA経済連、JA五連、生産振興課。革新支援専門員が中心となり、全普及事務所が参画。	（県）収益性の高い水田農業経営確立支援事業
福井県	2	「いちほまれ」栽培技術の確立と普及	H29 ～ 31	稲作	○地域の現状と課題 ・ポストコシヒカリ系統から1系統を選抜。現地で初めての生産となるため、栽培技術指導が必要。 ・エコファーマーおよび特別栽培も含めた施肥基準、栽植密度、移植時期、刈り取り時期の診断指標、適正登熟温度など栽培技術の確立が必要である。 ○目標を達成するための活動方法 ・栽培マニュアルに基づく生産指導 ・栽培技術確立の確立	農林総合事務所、嶺南振興局、農試（有機環境部、作物部、ポストコシヒカリ開発部）、JA中央会、JA経済連、生産振興課、地域農業課、福井米戦略課。革新支援専門員が中心となり、全普及事務所が参画。	（県）園芸産地総合支援事業 （県）収益性の高い水田農業経営確立事業
福井県	3	水田園芸の定着に向けた省力・安定生産技術の確立	H26 ～ 30	野菜	○地域の現状と課題 ・水田園芸では、白ネギ、契約キャベツを中心に作付が拡大している。 ・ネギでは新たな作型開発による作期拡大、契約キャベツでは多収栽培技術が求められている。 ・水稻作業と競合しない品目、作型、作付面積、人員の確保などの提示が必要 ・園芸を導入した経営効果を把握するとともに指標を定める必要がある。 ○目標を達成するための活動方法 ・ネギの作型開発と収量・品質向上支援 ・契約キャベツ大規模経営の確立 ・園芸導入に向けた試算指標の見直し	農林総合事務所、嶺南振興局、農試（園芸研究C）、JA、経済連、生産振興課。革新支援専門員が中心となり、全普及事務所が参画。	（県）園芸産地総合支援事業 （県）収益性の高い水田農業経営確立事業
福井県	4	広域推進主要果樹の生産拡大とブランド力強化	H26 ～ 30	果樹	○地域の現状と課題 ・ブドウ農家をつなぐ「ふくいブドウネットワーク」を発足させ、商標登録した「ふくぶる®」ブランドで直売と市場出荷を開始。 ・県産ブドウの生産者数・面積を増大させ、収量・品質を高めて販売額向上を目指すため、販路拡大を進める必要がある。 ・ウメは価格の低迷が続いているため、多収性品種の推進を進めている。福井のオリジナル品種「福太夫」は新商品を開発し売れ行きが好調で産地の活性化に寄与している。しかし、熟度のばらつきがあるため、集荷体制の整備および需要に対応した供給体制を確立する必要がある。 ○目標を達成するための活動方法 ・果樹指導体制の強化 ・ブドウ品質向上によるブランド力強化 ・ウメの多収性オリジナル品種の定着促進	農林総合事務所、農試（園芸研究C）、JA、経済連、生産振興課。革新支援専門員が中心となり、全普及事務所が参画。	（県）園芸産地総合支援事業 （県）収益性の高い水田農業経営確立事業
福井県	5	生産性の高い畜産経営支援	H26 ～ 30	畜産	○地域の現状と課題 ・輸入牛肉の増加や低価格牛肉の競争が激化している中、交雑種・乳用種肥育農家等を若狹牛生産に転換し、経営の安定化を図る必要がある。 ・新地鶏飼育農家へは出荷基準をクリアする飼養管理技術指導が必要である。また、生産拡大のための新規飼育農家の掘り起しが急務である。 ○目標を達成するための活動方法 ・若狹牛・高能力乳牛の導入による生産性改善 ・「新地鶏」飼養管理技術の確立 新地鶏導入農家の育成	農林総合事務所、嶺南振興局、農試、畜試、家畜保健衛生所、NOSAI福井、生産振興課。革新支援専門員が中心となり、全普及事務所が参画。	（県）若狹牛・高能力乳牛導入支援事業 （県）新しい地鶏振興事業

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関 (役割分担)	活用事業
福井県	6	ミディトマトを中心とした大規模施設園芸の経営確立	H28 ～ 30	野菜	○地域の現状と課題 ・50a規模の大規模施設園芸が嶺南地区を中心に行われており、他地区に波及している。 ・環境制御技術を駆使した長期どり栽培がおこなわれているが、圃場によって生育が異なり、生育診断の指標となるものがない。 ○目標を達成するための活動方法 ・長期どりミディトマトにおける生育診断の指標および高収益草勢モデルの作成 ・新規取組経営体への基本技術指導による栽培および経営の安定化	農林総合事務所、嶺南振興局、農試(園芸研究C)、J A、経済連、生産振興課。革新支援専門員が中心となり、全普及事務所が参画。	(県)園芸産地総合支援事業 (県)収益性の高い水田農業経営確立事業